

# 2025年 事後活動ニュース



内閣府青年国際交流事業はあなたの飛躍を応援します！



## CONTENTS

- 1 内閣府青年国際交流事業事後活動について
- 3 日本青年国際交流機構 (IYEO) 活動方針 Challenge for Challengers
- 4 日本青年国際交流機構 (IYEO) 設立40周年/にっぽん丸クルーズ/全事業報告会
- 1. 多様な交流で地域と世界の距離を縮めよう (国際交流分野) #国際交流 #地域**
- 5 SSEAYP Internationalの活動
- 6 第16回SWYAA Global Assembly in Egypt
- 7 ASEAN+3 on Skills Development for Youth in Sustainable Eco-Tourism and Agro-Tourism
- 8 世界青年発展フォーラム (世界青年发展论坛)
- 9 日韓国交正常化60周年記念イベント
- 2. 次世代のグローバルリーダーを育てよう (青少年育成分野) #青年 #人づくり**
- 10 青少年国際交流事業事後活動推進大会 (青森大会)
- 11 ブロックイベント開催報告
- 12 【既参加青年の活動】 Mini SSEAYP @高知県 / Meetup イベント第4弾
- 3. 多様な関係者と協働し社会課題を解決しよう (社会貢献分野) #地域 #社会貢献**
- 13 令和6年度「世界青年の船」事業 地域訪問活動 (静岡県) の受入れ
- 14 令和6年度「世界青年の船」事業 地域実践活動 (島根県) の受入れ
- 15 令和7年度国際社会青年育成事業 (地方プログラム) の受入れ
- 16 令和7年度日本・中国青年親善交流事業 (地方プログラム) の受入れ
- 17 令和7年度日本・韓国青年親善交流事業 (地方プログラム) の受入れ
- 18 【既参加青年の活動】小谷みどりさん
- 19 【既参加青年の活動】伴場森一さん

# 内閣府青年国際交流事業 事後活動について

## 1. 事後活動とは

内閣府青年国際交流事業に参加した青年（既参加青年）には、事業に参加して得た経験をその場限りのものとせず、事業参加後の活動に結びつけ、広げていくことが期待されています。

実際に、多くの既参加青年たちが、事業参加後もその属する地域や職域など社会の各分野において、事業参加によって得た知識や経験、人脈をいかして、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。内閣府では、事業で得た学びを広く地域社会や国際社会に還元することを目的にした社会貢献活動を「事後活動」と呼び、既参加青年の活動を支援しています。

## 2. 事後活動を支える 世界的な人的ネットワーク

「事後活動」に取り組む既参加青年の全国的組織として、1985年に日本青年国際交流機構（IYEO：International Youth Exchange Organization of Japan）が設立されました。また、海外においても、40を超える国々で外国参加青年の事後活動組織が設立され、各国独自の社会貢献活動が行われています。こうした事後活動を支えるネットワークの下、既参加青年は、同じ関心を持った青年と世代、地域、国を超えてつながり、活動しています。なお、これら事後活動組織による活動はもちろんのこと、既参加青年一人一人が自身の社会活動などにおいて、事業参加によって得たものをそれぞれのやり方で社会に還元することもまた「事後活動」です。

エジプトで開催された第16回SWYAA Global Assembly





青少年国際交流事業事後活動推進大会(青森県)



日本・韓国青年親善交流事業(山形県)



フィリピンのホストファミリーの誕生日をお祝い

## 3. 内閣府青年国際交流事業 2025年 事後活動ニュース

本事後活動ニュースは、2024年から2025年に既参加青年が各々の住む地域や職域等で取り組んだ事後活動の一部を主に紹介するものです。

### 1. 多様な交流で地域と世界の距離を縮めよう (国際交流分野) #国際交流 #地域

事業の長い歴史の中で培われた世界的な人的ネットワークの活動として、「東南アジア青年の船」事業の事後活動組織であるSI (SSEAYP International) については、SI各国からの活動を、「世界青年の船」事業の事後活動組織であるSWYAA (Ship for World Youth Alumni Association) については、エジプトで開催された第16回SWYAA Global Assemblyに参加した既参加青年からの報告を紹介します。

また、ラオスで開催されたThe ASEAN+3 on Skills Development for Youth in Sustainable Eco-Tourism and Agro-Tourism、中国で実施されたWorld Youth Development Forum 2025、韓国で開かれた日韓外交正常化60周年記念イベントにそれぞれ参加した既参加青年の報告も掲載します。

### 2. 次世代のグローバルリーダーを育てよう (青少年育成分野) #青年 #人づくり

都道府県IYEOでは、各地域で次世代の人材育成、地域の国際交流及び国際親善の促進のための様々な活動を行っています。

2025年の活動の中から、青森県で開催された青少年国際交流事業事後活動推進大会及び兵庫県、長野県、静岡県で開催されたブロックイベント(青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい)の取組を紹介します。

さらに、既参加青年は個人のレベルでも、各地域、職域、学校、青少年団体等で様々な活動を行っています。既参加青年が自主的にチームを結成して各地で活動をしている事例について紹介します。

### 3. 多様な関係者と協働し社会課題を解決しよう (社会貢献分野) #地域 #社会貢献

都道府県IYEOは各地域の様々な団体等と共同し、社会課題の解決に向けて新しい取組を行っています。本号では、内閣府青年国際交流事業における地方プログラムの受入れについて報告します。

また、本事業の参加によって得られた経験や学びを自身のキャリア形成にいかし、現在、ビジネスの第一線で活躍している既参加青年についても紹介します。



令和6年度近畿ブロックイベント(兵庫県)



The ASEAN+3 on Skills Development for Youth in Sustainable Eco-Tourism and Agro-Tourism



日本・中国青年親善交流事業(埼玉県)

# 日本青年国際交流機構 (IYEO) 活動方針

**Challenge for Challengers** 挑戦者のための挑戦を、世界と地域と世代をつないで。

## IYEOとは？

世界と地域、世代をつなぐ「挑戦者たち」の物語を、ここから。

IYEOは、内閣府の国際交流事業を経験した若者たちが、世界で得た学びや感動を、日本、そして地域社会で“次の挑戦”へとつなげていく場です。

私たちは、ただの「同窓」ではありません。

異なる国で、文化で、価値観に触れたからこそ生まれた気づきや行動力を、今度は国内や次の世代へと届ける、“つなぐ挑戦者”です。

国際交流で得た「Life Changing Experience」は、私たちの原点であり、これからをつくる力でもあります。

地域、社会、世界が直面する課題に、仲間と共に向き合い、学び合い、時に支え合いながら前に進んでいく。

それが、私たちIYEOの挑戦です。

## IYEO第二創業宣言：3つの柱

### 1. 活動の質と会員の主体性を高める組織改革

IYEOの存在意義と活動内容をゼロベースで見直し、社会が必要とする価値を提供できる団体へと生まれ変わります。既存会員が活動に「自分事」として関わりたくなる仕組みを作るとともに、活動の質と多様性を高めます。これにより、会員が能動的に関与する機会を増やし、団体全体の活力を向上させます。

### 2. 次世代を引き付ける魅力的な活動の展開

若い世代が積極的に参加したくなる魅力的な活動を創出します。これには、地域や国際社会の課題に応える新しいプログラムやプロジェクトの立ち上げが含まれます。未来を担う世代と共に、多文化共生社会の実現を目指します。

### 3. 社会との接点を強化し、認知され必要とされる団体への成長

活動内容を効果的に発信し、IYEOの理念や価値が広く認知されるよう努めます。地域住民や企業、行政、他団体との連携を深めることで、社会の課題解決における信頼されるパートナーとなり、社会から必要とされる団体を目指します。

## IYEO第二創業宣言：マニフェスト

活動・組織・支援のあり方を根本から見直し、  
次の世代にとって魅力的な活動と活動基盤を作り、次世代にバトンを渡す

01

### 若者ファースト

日本青年国際交流機構の名前の通り、青年たちのために活動・存在しているということを明確に打ち出し、若者たちのキャリアや事後活動を第一に考えていきたい。

02

### グローバルネットワーク活用

内閣府事業以外にも様々な国際的な取り組みがありますが、海外参加青年を含めたこれだけの国数と参加者数と長年の活動の積み重ねのある団体は類を見ない。その強みや特徴を最大限活かしたい。

03

### コレクティブインパクト

会員の専門性や繋がりを活かして、戦略的・集約的に活動を行うことにより、会員のやりがい創出や社会価値共創に繋げていきたい。

## IYEO設立40周年を迎えました

日本青年国際交流機構 (IYEO) は、昭和34 (1959) 年度に実施された「青年海外派遣」事業を起点とし、これまで多くの青年が国内外で学びと交流を深める場を提供してきました。現在、1万名余りの会員が、この伝統ある組織の一員として活動を続けています。昭和60 (1985) 年4月にIYEOが設立されて以来、地域社会や国際交流の分野で数々の活動を展開し、今年で40周年という重要な節目を迎えました。

この40周年という節目を真摯に受け止めるとともに、グローバル・コミュニティを認識した日本人としての自覚をもって、青年国際交流事業で得た貴重な経験を地域社会における活動の推進にいかし、次世代の育成に力を入れ、「挑戦できるコミュニティ」としてのIYEOの未来を共に築き上げるため、IYEOは更なる進化を目指します。これを記念して、令和7年 (2025) 年度を通じて様々なイベントを企画しました。イベントを通じ、次世代を担う若者たちが、失敗を恐れることなく大胆に挑戦し成長できる場を提供し続けることが、これからの重要な使命であると考えています。そのため、IYEOとして、地域社会に密着した活動を一層強化し、行政機関や学校、関係団体との連携を深めながら、より広く価値を共有していくことを目指します。

## IYEO設立40周年記念 ありがとう。にっぽん丸 ショートクルーズ

2025年12月18日～19日、名古屋から神戸へチャータークルーズ

IYEOは、多くの青年の人生にとっても大きな影響を与え、“Life Changing Experience”となった青年国際交流事業の共通体験を持つコミュニティとして大きく発展してきました。その舞台の一つが「にっぽん丸」です。IYEOの「新しい船出」を祝して、令和7 (2025) 年12月18日～19日、名古屋から神戸へのショートクルーズを実施し、317名 (海外から27名含む) が参加しました。

船内では、事業記念記録動画の上映会、ドルフィンホールでの出航式、「船から生まれるグローバル・シチズンシップ」をテーマにした基調講演、民族衣装コンテスト、クイズ大会、ラッフルチケット抽選会、「にっぽん丸ソング」を歌う等、盛りだくさんのプログラムが実施され、大盛況のうちに終了しました。これからもIYEOは、青年国際交流事業がより良い形で次世代へと受け継がれ、育っていくことを支えるしくみづくりに挑んでいきます。



IYEO設立40周年記念「ありがとう。にっぽん丸ショートクルーズ」の参加者

## IYEO全事業交流会

令和7 (2025) 年3月16日 (日)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、IYEO全事業交流会を開催しました。今年度参加青年19名、既参加青年48名の計67名 (主催者・実行委員など関係者12名含む) の参加がありました。

各事業の今年度参加青年による事業報告、既参加青年による講演の他、参加者同士の親睦を深めるミニゲームやテーマごとの座談会、昼食会があり、事業を超えた交流を深めるよい機会となりました。

また、「世界青年の船」事業の既参加青年として、衆議院議員の深作へスさんが熱い思いを語り、参加者一同、聞き入っていました。

参加者アンケートでは、9割以上の方がイベントに満足と回答いただき、大好評でした！お忙しい中ご参加いただいた皆様、準備を応援してくださった関係者の皆様に御礼申し上げます。



IYEO全事業交流会の参加者

# SSEAYPインターナショナル (SI) 各国の活動

## 「アジア青年リーダー育成プログラム」

(AYLEP: Asian Youth Leaders Empowerment Program)



マレーシア・ヌグリスビラン州にてATV(四輪バギー) 乗車体験を楽しんだ参加者

令和7年(2025年)6月15日(日)～28日(土)、シンガポール、マレーシア、タイの事後活動組織(SSEAYPインターナショナル・シンガポール、KABESA、ASSEAYタイ)の共同事業として、「アジア青年リーダー育成プログラム」(AYLEP: Asian Youth Leaders Empowerment Program)を開催しました。

AYLEPは、「東南アジア青年の船」事業の既参加青年が自らの経験を共有することにより、地域の若者の社会貢献活動への参加を促進することを目的とした、青年リーダー育成プログラムです。

プロジェクト管理とチームワーク・スキルの向上に重点を置き、シンガポール、マレーシア、タイの3か国において、様々な施設への視察、ホームステイ、グループ・ディスカッション、各国大使館への表敬訪問などが行われました。3か国からの参加者は各国混成のグループを組み、地域社会のための開発プロジェクトを考えました。プログラムの終了時には、各グループが考えたプロジェクトを発表し、内容の優れた3グループが表彰されました。表彰されたプロジェクトについては、その後実際に実施され、その進捗について、各国事後活動組織の運営チームが1年間モニタリングします。

AYLEPは、今後も毎年開催を目指しており、将来的にはより多くの国からの参加を期待しています。



マレーシア・ヌグリスビラン州にてコミュニティセンターを訪問し、現地の青年と一緒にセンターの壁に壁画を描く



シンガポールにて献血センターを訪問する参加者



タイ・サトゥーン県にて各グループが考えた地域社会のための開発プロジェクトを発表し、表彰された3グループ

# 第16回SWYAA Global Assembly in Egypt

令和7年(2025年)11月22日(土)から27日(木)に「世界青年の船」(SWY)事業の既参加青年ネットワークである「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)の第16回SWYAA Global Assembly(SWYAAGA)がエジプトのカイロ、アレキサンドリアで開催され、エジプトを含む32か国から307名が参加しました。内閣府からは、南順子青年国際交流担当室長、長谷川穂主査付が出席しました。以下にIYEOを代表して派遣された日高莉那さん(令和6年度「世界青年の船」事業既参加青年)からの報告を一部抜粋して掲載します。



日高莉那さん  
令和6年度「世界青年の船」事業  
参加青年

## 社会貢献活動

参加者が6つのグループに分かれて社会貢献活動を行いました。私は、ナイル川のごみ削減を目指す団体であるVery Nileを訪問しました。ごみの集め方から集めたごみの再利用(アップサイクル<sup>※1</sup>・リサイクル<sup>※2</sup>)・販売方法までの一連の流れについての説明を受けた後、実際にごみ清掃活動に参加し、再利用現場の見学・製品購入を行いました。Very Nileでは、地元の漁師と協力して、年間25~35トン、累計454トンものごみを回収しており、ナイル川の環境保護に貢献しているだけでなく、地域社会の雇用創出にも寄与しているということが分かりました。

※1 アップサイクル:別の製品として再生させる取組み

※2 リサイクル:原材料へ戻し、再び資源として利用する仕組み



ゴミ清掃活動に参加

## 事後活動発表会

各国代表者による Post-Program Activity (PPA) の発表会では、各国がそれぞれの地域課題に応じた多様な活動を継続していることが示されたほか、国同士が連携して共同で事後活動を実施した事例も紹介され、国際ネットワークとしての広がりを実感できる内容でした。SWYへの強い思いが共有されていることを改めて認識しました。

その後は、各自が今後どのようなPPA活動を実施し、各国代表者はSWYAAとしての活動をどのように広げていくかをテーマに意見交換を行いました。特に、SWYAA代表者が集まったグループでは、国を越えた連携体制の重要性について活発な議論が行われました。情報共有の基盤としてWhatsAppグループを立ち上げ、今後のオンラインミーティングに向けて準備を進めていくことで合意し、継続的な協力体制が動き出しました。

日程	活動内容
11/22(土)	エジプト到着、アイスブレイキング・ディナー
11/23(日)	社会貢献活動(6グループに分かれて奉仕活動の場を訪問)、国立エジプト文明博物館訪問、オープニングセレモニー・ディナー
11/24(月)	ピラミッド散策、大エジプト博物館(GEM)訪問
11/25(火)	アレキサンドリア散策(カタコンベ・ローマ劇場・聖マルコ大聖堂・カイトベイ要塞・図書館)
11/26(水)	イスラミック・カイロ(カイロ旧市街)散策、事後活動発表会、フェアウェルパーティー
11/27(木)	解散(オプションツアー参加者はアスワンへ)



筆者による事後活動に関する発表



PPAディスカッション



各国SWYAA代表者集合写真

最後に、内閣府からのビデオメッセージが上映され、GA参加者へのメッセージが伝えられたほか、令和7年度「世界青年の船」事業の参加国・スケジュール・寄港地が発表されました。併せて、区間乗船予定の既参加青年3名の紹介が行われました。また、次回のGAがメキシコで開催されることが、同国の代表より発表されました。国際交流の継続性と今後への期待が一層高まりました。

# 参加報告 The ASEAN+3 on Skills Development for Youth in Sustainable Eco-Tourism and Agro-Tourism



令和6年(2024年)12月25日(水)～30日(月)、ラオスにてThe ASEAN+3 on Skills Development for Youth in Sustainable Eco-Tourism and Agro-Tourismが開催され、ASEAN10か国と中国、日本、ASEAN事務局より合計33名が参加しました。ラオス政府より内閣府に対して日本代表者の推薦依頼があり、IYEOを代表して、安藤承子さん、酒井貴子さん、山本万優さんの3名が参加しました。以下に報告の抜粋を掲載します。



日本代表として参加した酒井貴子さん、山本万優さん、安藤承子さん

## ■ 2日目(12月26日(木))

Mr. Lithiphone CHITTANUSONE(Vice Head of Tourism Development Division, Department of Information, Culture and Tourism of Luang Prabang Province)より、ルアンパバーンのエコ&アグロツーリズムに関するプレゼンテーションとGreen Discovery Laosの運営を行うINTHIEA GROUPの代表者より企業の取組について紹介がありました。

午後は、持続可能なエコ&アグロツーリズムを展開している民間セクターLaos Buffalo Dairyを視察。グループごとに水牛の乳絞りやミルク・餌やり体験、アイス試食。その後、Ock Pop Top Handicraftを訪問、蚕や染料源、機織りの光景などを見学、テキスタイルを通してラオス文化に触れることができました。

## ■ 3日目(12月27日(金))

象や美しいフラワーガーデンのあるGreen Jungle Park(Hoi Khua Waterfall)を視察。その後、各国約10分の観光状況やエコ&アグロツーリズム事例等についてのプレゼンテーションを聞きました。また、起業家・専門家であるMr. Viboon Sithimolada(YEAL-Youth Entrepreneurs Association of Laos)によるラオスでの持続可能な観光の事例紹介やデジタル関連等の講義や各国青年との意見交換ができるワークショップにも参加しました。

## ■ 4日目(12月28日(土))

昨日に続き、Mr. Sithimoladaによる起業家に求められるスキルやスキルアップ、マーケティング手法等の講義、グループで「独創的なGreen Jobを五つ提案する」ワークショップに参加。午後は、別グループに分かれ、Environmental Challenges, Economic impacts, Social outcomesの三つの関係マッピングを作成するワークショップに参加しました。



Mr. Sithimoladaによるワークショップ

## ■ 5日目(12月29日(日))

世界遺産構成要素でもあり、ルアンパバーンを代表する寺院Xieng Thong Templeを訪問。午後は国ごとに3グループに分かれ、本事業で得た知識やスキルを踏まえ今後何ができるかをテーマに各グループが発表。最後に総評・本事業のまとめを行いました。

## ■ 所感

各国プレゼンテーションからは、それぞれの国の観光資源・魅力やエコ&アグロツーリズムの現状アプローチ、プロモーション事例等が分かり、お互いのアイデア共有にもつながりました。日本のプレゼンテーションでは、インバウンドの状況や課題、民間・スタートアップ事例などを盛り込み、日本の視点での紹介ができたと思っています。



World Youth Development Forum 2025の参加者

令和7年(2025年)7月13日(日)～7月19日(土)、World Youth Development Forum 2025が中国の蘇州及び長沙にて開催され、主催団体である中国国際青年交流センターより代表者の推薦依頼があり、IYEO会員3名を派遣しました。以下に報告の抜粋を掲載します。

### 「若者は時代を拓くリーダー」

今年度のフォーラムは、“Unleash Youth Potential for Global Development”「若者の潜在能力をグローバル発展に活かす」をテーマに開催され、100か国以上の国と地域及び17の国際機関から計500名が参加しました。また、“100 Excellence Actions of the Action Plan”に選拔された組織及び若手リーダーはAcceleration week Programというプログラムに参加しました。

開会式では、中国政府の青年担当大臣や青年団体、国際機関の代表者が集い、パネルディスカッションでは、「若者の潜在能力の可能性」について深い議論が交わされました。フェリペ・パウリエール国連青年問題担当事務次長は、地球規模の課題が山積する中、若者は受動的な傍観者ではなく時代を拓くリーダーであると述べられ、私たち若者が世界的社会問題を解決するうえで国内のみならず様々な国々に関わり合いながら、アクションを取っていくことの必要性を再確認をすることができました。



グループ内でのディスカッション



各国青年との交流

### 新たな視点やアイデアを得る機会

Acceleration week Programでは、貧困、デジタル革命、グリーン開発、気候変動、教育など、世界的な社会課題の分野ごとに分かれてグループ活動をしました。私は「Partnerships for the goal」グループに参加し、推進しているプロジェクトの活動内容についてプレゼンテーションを行いました。メンターや専門家からアドバイスをいただいたり、グループ内でのディスカッションを通じて新たな視点やアイデアを得る有意義な機会となりました。

フィールドワークでは、蘇州・長沙に行き、中国のAI Tech企業やYouth venture Platform、Hunan大学へ訪問しました。実際に現地を訪問し、地元の方との対話を通じて、中国における各種取組や将来の構想、そして現在直面している課題について、具体的かつ多面的に理解を深めることができました。

約1週間にわたるフォーラムを通して、国籍や業種の異なる多様なバックグラウンドを持つ参加者と積極的に交流を図り、それぞれの視点から課題を捉えることで、深い議論と学びを得ることができました。同世代が中心となるフォーラムであったからこそ、互いに刺激を受けることができたとともに、視野を大きく広げる貴重な機会となりました。そして何より、世界中に尊敬できる友達がたくさんできたことは、何よりも大きな財産となりました。本フォーラムで得たつながりを今後も大切に育みながら、グローバルな視点で社会にインパクトを与えるアクションの実現に向け、日々の活動に取り組んでまいります。

令和7年(2025年)10月23日(木)～25日(土)、日韓国交正常化60周年記念イベントが韓国のソウルにて開催され、代表者としてIYEO会員が派遣されました。以下にIYEOを代表して派遣された荒井奏絵さんの報告を掲載します。



荒井奏絵さん

平成28年度日本・韓国青年親善交流事業  
参加青年

### 心を通わせられる場

日韓国交正常化60周年を記念し、令和7年度「日本・韓国青年親善交流事業」の派遣期間中にソウルで開催された記念イベントに参加する機会をいただきました。

10月23日、内閣府青年国際交流担当室の南室長、平成28年度事業団長の中田様、青年国際交流担当室の那須主査と共に訪韓しました。

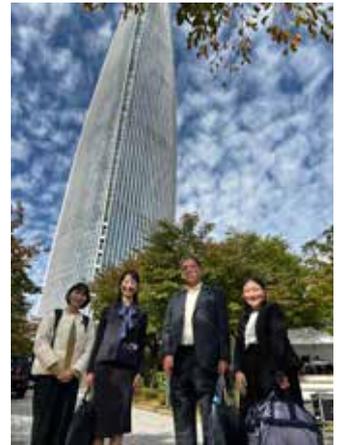
初日の夕食会では韓国青少年活動振興院の方々より温かい歓迎を受け、翌日は、私たちのために特別な行程を組んでいただきました。風景を通じて韓国の住居・教育環境や文化への理解を深める貴重な時間となりました。その後、今年度の日本青年と韓国青年の交流プログラムを見学しました。既参加青年が実行委員として企画・運営を担うレクリエーションでは、言葉の壁を越えて楽しむ現役青年たちの姿があり、また積極的にお互いの言語で歩み寄ろうとする姿勢が大変印象的でした。実際に参加した経験を持つ先輩たちが作るからこそ、心を通わせられる場になっているのだと、運営の手法を学ぶ上でも大きな刺激を受けました。同日夕方の「日韓国交正常化60周年記念式」では、韓国・女性家族部のチェ・ウンジュ課長からの歓迎の辞や、南室長の挨拶に続き、60周年を祝う記念ケーキのカットが行われました。

皆様の祝辞を拝聴しながら、長きにわたり多くの青年たちが交流を重ねてきたからこそ、この記念すべき年を迎えられたのだと実感しました。

続く文化発表では、韓国側の名所紹介やK-POP、日本側のソーラン節やヲタ芸などのパフォーマンスが披露されました。互いに一生懸命準備したことが伝わる熱心な姿に感動し、公演後には「かっこよかった!」「すてきだった」と両国の青年が称え合う姿に胸が熱くなりました。



日本からの参加者



ソウルスカイ展望台訪問

日程	活動内容
10月23日(木)	成田空港発、仁川空港着 韓国青少年活動振興院(KYWA)主催夕食会
10月24日(金)	ソウルスカイ展望台訪問
	文化交流会参観
	日韓国交正常化60周年記念式参加 ○ 開会および挨拶 - 開会の辞 韓国青少年活動振興院(KYWA) - 歓迎の辞(女性家族部(MOGEF)) - 答辞(日本側) ○ 記念式(ケーキカット式) ○ 祝賀公演 ○ 集合写真撮影 ○ 晩餐および両国青年の文化発表
10月25日(土)	金浦空港発、羽田空港着

### 継続することの意義

今回の経験は、40年近く続いてきた本事業の歴史の重みを改めて肌で感じる機会となりました。私自身、2016年の

事業に参加し、その後は韓国関連の事後活動に精力的に取り組んでまいりました。当時は先輩方の経験を「点」のように感じていましたが、今回の記念事業を通じてそれらが「線」となり、今日まで脈々と受け継がれてきたことを実感し、改めて本事業に関わられたことに感謝の念を抱きました。私は交流の現役を引退して以来、交流の「場」を作ることに尽力してきましたが、今回改めて感じた「継続すること」の意義を胸に、今後も次世代の青年たちがこの絆を未来へ紡いでいけるよう、事後活動を通じて日韓交流の発展に寄与していきたいと強く思いました。



60周年を祝う記念ケーキのカット



日本青年による文化発表

# 青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第41回全国大会



令和7年(2025年)10月24日(土)、青森県青森市にて、青少年国際交流事業事後活動推進大会(日本青年国際交流機構第41回全国大会)がハイブリッド形式で開催され、「Meet me, Meet the new me ~新しい自分に出会う旅~」をテーマとして掲げた本大会には、全国から対面とオンライン合わせて155名が集いました。

本イベントでは、中高生・大学生を含めた多様な世代を対象に、それぞれの立場でこれからの生き方・働き方について多角的に考える機会が提供されました。基調講演、パネルディスカッションとワークショップ、ポスターセッション(参加型)を通じて、「世界を舞台に活躍すること」「地方で挑戦すること」の双方について多様なロールモデルや価値観に触れることができました。また、青森で挑戦を続ける若者や、これまで国や県のさまざまな海外プログラムや育成事業に参加してきた青年たちと直接対話するセッションは、地域を越えたつながりや学びの場となり、今回の出会いを通じて、参加者一人ひとりが、自身の可能性と地域での新たな気づきを得る機会となりました。

本大会は、若者にとっては将来の可能性を広げる場として、大人にとっては、地域との関わりや自身の経験を振り返りながら「何歳になっても挑戦できる」ことを再認識し、新たな一歩を踏み出すきっかけとなりました。

プログラム
第1部
開会式、全体集合写真記念撮影
基調講演「この街で夢をかなえる」 講師：樋川 新一氏 株式会社樋川自動車 有限会社リンゴミュージック代表取締役
ポスターセッション
パネルディスカッション 「世界にはばたく、青森からはばたく」 鈴木美朝氏、白石祥和氏、周布祐馬氏、ムー・ユーチェン氏
閉会式
第2部
事業参加報告・「Next Local Heroes—未来を拓く5分間」 懇親意見交換会(@ぬぶたの家ワ・ラッセ)・東北6県の祭りなどの紹介



「この街で夢をかなえる」と題して基調講演をする樋川 新一氏



地元青森県及び東北地方で活躍する講師によるパネルディスカッション



熱心に話を聴く参加者



県内高校生・大学生・社会人によるポスターセッション発表にて、来場者の質問に答える担当者



懇親意見交換会にて東北6県の祭りを体験する参加者

# 青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるついで ブロックイベント開催報告

## 令和6年度近畿ブロック（兵庫県）



令和7年（2025年）1月18日（土）、兵庫県神戸市のArtTheater dB KOBE アスタくにつか4番館にて近畿ブロックイベントを開催し、132名が参加しました。

イベントテーマは「場づくり×国際交流×地域貢献～関西場づくりサミット～」。神戸市は、世界の玄関口として、1868年開港以来港町として栄えてきました。中心部は利便性の高い都市機能を備え、近くに六甲山系の豊かな自然と、港から開放された世界への広がりから、「2019年世界生活環境調査・都市ランキング」において、「住みよいまち」に認定されました。

しかし、住みやすさの裏には、社会変化に伴う課題があり、解決のための様々な工夫なくして、快適な環境を継続することはできません。社会課題の解決に興味を持ちながらも、「何から始めればよいかわからない」「チャレンジする勇気がない」と感じている青少年に対して、挑戦を続ける兵庫県及び関西在住のメンバーから「示唆と勇気を提供」し、参加者が自分の夢を具体的に実現する力を得る機会となりました。

## 令和6年度北信越ブロック（長野県）



令和7年（2025年）3月2日（土）、長野県長野市の20代メンバーが運営するリノベーション施設R-depotにて北信越ブロックイベントを開催し、95名が参加しました。

イベントテーマは「ワールドキャリアカフェ2025～海外経験を長野で活かす～」。留学や国際交流事業等の海外経験は、海外や大都市圏だけでなく長野等の地方都市でも活かすことができることを示し、長野県内の次世代の人材育成に繋げることを目的に開催しました。本イベントが開催された3月は就職活動の時期であるため、長野県内で海外経験を活かして働く内閣府青年国際交流事業の既参加青年にこれまでの「キャリア」に関する話をいただきました。参加者からは、「海外経験を得るための様々な方法と手段があることを知った」「自分の今いる場所が全てではないことに気づいた」「自分で自分の可能性を無意識の間に狭めているかもしれないと感じ、意識を変えてみようと思った」等の感想が寄せられました。

## 令和7年度東海ブロック（静岡県）



令和7年（2025年）7月5日（土）、静岡県静岡市東部勤労者福祉センター清水テルサにて、東海ブロックイベントを開催し、87名が参加しました。

イベントテーマは「小さなまちから始まる未来づくり『ローカル×グローバル』の視点を活かした地域活性化の可能性」。少子高齢化や人口減少が進行する地方の「小さなまち」では、地域の活力を維持し、持続可能な未来を切り拓くことが喫緊の課題となっていますが、従来どおりのローカルな視点のみでのアプローチによる解決は限界を迎えています。

本イベントでは、地域の人々の知恵や文化等の社会資源と国内外の多様な人材が生み出すアイデアを掛け合わせて、新たな価値を創出していく、「ローカル×グローバル」の視点を活かした地域活性化の可能性を探りました。

基調講演では、エムスクエア・ラボ代表の加藤百合子氏より、地域課題をテクノロジーと共創で解決する取り組みを紹介しました。特に、地域の農産物を効率的に流通させる「やさいパス」の活動は、ICTによって地産地消やフードロス削減に貢献しており、静岡県発の地域活性化の新たなモデルとして他県にも展開しています。これらの活動から、参加者にとっては「共感力」と「実行力」を持って社会に関わることの大切さや国際交流の経験を地域で活かす意義について考える機会となりました。

# 既参加青年の活動

## Mini SSEAYP@高知県

令和7年(2025年)9月6日(土)、高知市立高知商業高等学校にて、令和6年(2024年)に行われた第48回「東南アジア青年の船」事業の参加青年及びナショナルリーダーが、IYEOチャレンジファンド助成を受けて、同事業の事後活動として「Mini SSEAYP」を実施しました。

「Mini SSEAYP」は、参加青年が同事業の中で感じた①異文化理解、②心理的安全性をテーマとして、グローバル化していく日本において、高校生世代に、他国の文化を理解することの楽しさを感じてもらおうとともに、心理的安全性とは何かを学び、実践しながらそれらを体感し理解してもらうことを目的としました。

外国参加青年からのビデオレターに基づく東南アジア各国のクイズや、伝統衣装の着用による「ファッションショー」に加えて、ASEAN各国の施策などから日本・高知県における課題解決策や魅力創出案を議論し発表する「ASEANセミナー」などが行われました。

参加した生徒からは「他国の文化を学ぶことの楽しさを知ったことにより、違いを楽しめるようになった」という意見や「隊形の作り方や聞き方など、具体的な心理的安全性の構築方法を学ぶことができた」という感想のほか、「今回の経験が進路の参考になった」というコメントもありました。本活動をきっかけとして、今後も持続的に全国各地で第二弾、第三弾と実施していきたいと考えています。



「Mini SSEAYP」に参加する高知市立高知商業高等学校の生徒たち



「Mini SSEAYP」を実施した第48回「東南アジア青年の船」事業の参加青年及びナショナルリーダー

## 【IYEO広報】Meetupイベント第4弾開催！ 11/30 @市ヶ谷&オンライン 「社会課題を“私ゴト”にする～未来をつくる原畑 実央さんの挑戦～」

IYEO広報チームでは、ゲストを招いたMeetupイベントを継続的に開催しており、令和7年(2025年)11月30日(日)、第4弾となるイベントを実施しました。

今回のゲストは原畑実央さん。原畑さんは、カンボジアをはじめとする東南アジアと日本の社会起業家をつなぎ、社会課題の解決に取り組んでいる社会起業家です。大学在学中から社会問題に向き合う活動を続け、卒業後は海外販路支援の仕事を経てカンボジアへ移住し、現地で人材紹介事業のマネジメントに従事しました。令和元年(2019年)にソーシャルマッチ株式会社を立ち上げてからは、社会課題に挑む人々の連携を促し、持続可能な変化を生み出す仕組みづくりを推進しています。

トークセッションでは、社会課題の解決に取り組まれてきたこれまでと将来の展望などについて貴重なお話をお聞きました。参加者との質疑応答も活発で、新しい事業に取り組んでいるからこそ生まれる葛藤やリアルな経験談などを伺いました。また、ワークショップでは、参加者をオンラインと対面の2チームに分け、「カンボジアの特産品を活用して、現地の社会起業家とのコラボ商品を考える」というテーマでアイデア出しを行いました。カンボジアで現地事業に取り組む方とのコラボレーション商品を考えるなど、面白いアイデアや実現可能性が非常に高いアイデアが飛び交い、参加者同士の交流が深まる時間となりました。



社会起業家 原畑実央さんによるトークセッション

# 令和6年度「世界青年の船」事業（地域訪問活動）の受入れ

令和6年度「世界青年の船」事業が令和7年（2025年）1月24日（金）から2月21日（金）に実施されました。日本を含めた世界13か国の多様なバックグラウンドを持つ参加青年が、船内等で共同生活を送りながら日本各地を訪問しました。その中で行われたディスカッションや参加青年主体のワークショップ、文化交流を通して、異文化対応力、コミュニケーション力、リーダーシップ、マネジメント力の向上を図るとともに、国境を越えた強固な人的ネットワークの構築を目指しました。静岡県で行われた地域訪問活動、島根県で行われた地域実践活動ともに、強風などにより予定していた港への入港がかなわず、港の変更を余儀なくされましたが、大幅なプログラムへの影響はなく、学びの多い活動が実施されました。本ページでは、静岡県IYEOと島根県IYEOからの報告を掲載します。

## 地域訪問活動

2月2日（日）から3日（月）の2日間、静岡県で地域訪問活動を実施しました。1日目は全グループでキウイフルーツカントリーJapanを訪問した後、船内で歓迎レセプションを開催しました。2日目の午前中は7つのグループに分かれ、静岡県内の7つの小中高校、午後は浜岡原子力館を訪問しました。

日程	プログラム
2月2日（日）	オリエンテーション
	キウイフルーツカントリーJapan訪問
	船内公開
	船内歓迎レセプション
2月3日（月）	学校訪問
	1号車 (A/B) 常葉大学附属菊川中・高等学校 (菊川市)
	2号車 (C/D) 掛川西高等学校 (掛川市)
	3号車 (E/F) 榛原高等学校 (牧之原市)
	4号車 (G/H) 池新田高等学校 (御前崎市)
	5号車 (I/J) 御前崎小学校 (御前崎市)
	6号車 (K/L) 御前崎中学校 (御前崎市)
	7号車 (M/N) 相良高等学校 (牧之原市)
浜岡原子力館訪問	
クロージングセッション	



キウイフルーツカントリー Japanを訪問し、農園内の全てのものを無駄にしない、持続可能な自然と地球に優しい循環型農法の取組みについて説明を聞く



トークフォークダンスを実施し、向かい合わせに座り、高校生と参加青年が一对一で様々な会話をかわす(掛川西高等学校)



小学5年生約35人が集まり、参加青年による各国紹介やウミガメの保護活動をテーマとした児童主体のゲームをして交流する(御前崎小学校)



中学1年生約110名が集まり、学校の概要説明、校内見学、16グループに分かれて参加青年による自己紹介や各国の紹介、「こんにちは」を各言語で伝えるなど、簡単な英語による生徒との交流活動を行う(御前崎中学校)



浜岡原子力館を訪問し、中部電力職員から原子力発電の仕組み、安全性向上対策について説明を聞いた後、参加青年と意見交換を行う

# 令和6年度「世界青年の船」事業（地域実践活動）の受入れ

## 地域実践活動

日程	プログラム
2月8日（土）	昼食、オリエンテーション、孝現学に基づくまち歩き
2月9日（日）	CDごとに関連施設訪問・活動
2月10日（月）	島根県知事表敬訪問、堀川遊覧船体験、島根県内視察
2月11日（火）	CDごとに関連施設訪問・活動
2月12日（水）	成果発表準備、昼食、成果発表、船内公開、安来節パフォーマンス

2月8日（土）から12日（水）までの5日間、島根県で地域実践活動が行われました。これは、船上で行われたコース・ディスカッション（CD）のテーマとして設定された社会課題について議論し、知見を深めた参加青年たちが、島根県で実際に社会活動に取り組む地域の人々との協働を通じて、社会課題の解決法について考える活動です。

島根県は、人口減少に伴う地域課題の取組先進地として、地域社会の継続と、次世代への継承をテーマとした8コースのプログラムを準備しました。参加青年は島根県の方々との交流を通して、様々な解決方法に関する理解を深めました。



「学び含みつけ」にて空き家の再活用について講義を受け、地域資源の活用による集落再生について学びを深める（CD-1）

コース・ディスカッション	
CD-1	Community Design Utilizing Local Resources
CD-2	Inheritance of Traditional Culture
CD-3	Quality Education
CD-4	Environmental Conservation
CD-5	Social Inclusion of Migrants in Local Community
CD-6	Tourism Promotion Utilizing Local Resources
CD-7	Youth Empowerment in Rural Areas
CD-8	Quality Welfare Services



島根県立大学浜田キャンパス内のサークル「舞浜社中」の活動について学び、石見地方に伝わる日本神話を題材にした華やかな伝統芸能「石見神楽」の舞の所作を体験する（CD-2）



「地域みらい留学」の取組で有名な島根県立島根中央高校を訪れ、学校の制服を着用して、日本の高校生活を体験、高校の活性化が町の生き残りにつながることを学ぶ（CD-3）



大森町の「石見銀山みらいコンソーシアム」を訪れ、地元の方々との意見交換を通じて、「暮らし」と「観光」を両立させるためのバランスについて学ぶ（CD-6）



雲南市を中心に地域活性化を支援しているNPO法人おっちラボを訪問し、地域活性化のために新しいチャレンジを始める人々への支援内容やUターン移住者が多い理由等について説明を受ける（CD-7）

# 令和7年度 国際社会青年育成事業 (地方プログラム) の受入れ

令和7年度国際社会青年育成事業(外国青年日本招へい)が令和7年(2025年)9月18日(木)から9月28日(日)の11日間の日程で行われました。外国参加青年は、9月19日(金)から23日(火)まで、テーマごとに3グループに分かれて地方プログラムに参加しました。外国参加青年は地元青年と共に各地で地元の人々と交流し、地方の文化に触れるとともに、テーマに関する地域の取組への理解を深めました。本ページでは、新潟県、鳥取県及び大分県で実施された地方プログラムの様子をそれぞれ紹介します。

## ■新潟県

新潟県では、「障害者」をテーマとし、イタリア青年が関連施設の視察や意見交換、地元青年とのディスカッションを行いました。小学生との交流やホームステイなど、地元の方々との交流も実施しました。

日程	プログラム
9月19日(金)	十日町市立十日町小学校、ふれあいの丘支援学校にて児童と交流、鈴木康之副知事表敬訪問、歓迎会
9月20日(土)	ホームステイ
9月21日(日)	新潟県障害者交流センターにて、利用者とボッチャで交流
9月22日(月)	地元青年とのディスカッション 社会福祉法人とよさか福祉会を視察、新発田城見学
9月23日(火)	白根グレープガーデン視察、帰京



十日町市立十日町小学校の児童と交流



お世話になった地元の方々との別れを惜しむ外国青年たち

## ■鳥取県

鳥取県では、「高齢社会」をテーマとし、ドイツ青年が鳥取市と米子市を訪問し、副知事表敬訪問や関連施設の視察を行いました。ホームステイや農園での芋掘りを通じた多世代交流により鳥取県における取組みの理解を深めました。

日程	プログラム
9月19日(金)	鳥取砂丘見学、中原美由紀副知事表敬訪問(米子市へ移動) ホームステイマッチング
9月20日(土)	ホームステイ
9月21日(日)	ホームステイ
9月22日(月)	弓浜ホスピタウンを訪問(真誠会、及び老人福祉センターを視察) 崎津夢農園訪問、歓送迎会
9月23日(火)	水木しげるロード散策、帰京



中原副知事への表敬訪問



ホームステイマッチング

## ■大分県

大分県では、「バリアフリー・ユニバーサルデザイン」をテーマとし、フランス青年が大分県立芸術文化短期大学の学生との交流や、社会福祉法人太陽の家等関係施設の視察を行いました。これらの活動を通じて大分県の取組みについての理解と地元青年との交流を深めました。

日程	プログラム
9月19日(金)	大分市内散策、桑田龍太郎副知事表敬訪問 歓迎会・ホームステイマッチング
9月20日(土)	ホームステイ
9月21日(日)	臼杵市街地・城趾見学、着物体験
9月22日(月)	大分県立芸術文化短期大学訪問 社会福祉法人太陽の家視察 バリアフリースーパー「サンストア」見学
9月23日(火)	ホーパークラフト乗船体験、帰京



臼杵市街での着物体験



太陽の家に所在する工場で、障害のある方でも使いやすいように改良された治具の説明を受ける

# 令和7年度 日本・中国青年親善交流事業 (地方プログラム) の受入れ



堀光敦史埼玉県副知事表敬訪問

令和7年度日本・中国青年親善交流事業(日本プログラム)が令和7年(2025年)11月4日(火)から8日(土)の5日間の日程で行われました。日本青年代表団20名及び中国青年代表団20名の計40名は、東京都と埼玉県を訪れ、テーマ別視察やディスカッション、地元青年との交流等を行いました。

本ページでは埼玉県で実施された地方プログラムについて報告します。

## ■埼玉県

埼玉県では、表敬訪問、テーマである「新しい時代の働き方」・「文化と伝統」に基づいた地元企業への訪問、川越市内散策等を行いました。交流会や歓迎会を通して地元青年とも交流を深めました。

日程	プログラム
11月6日(木)	堀光敦史埼玉県副知事表敬訪問 地元企業訪問 石坂産業株式会社 歓迎会
11月7日(金)	川越グリーンツーリズム拠点施設にて芋掘り等体験 川越市内散策 中間成果発表および交流会
11月8日(土)	金笛しょうゆパーク見学 ららぽーと富士見・地元企業訪問(ヤオコー)



石坂産業株式会社にて産業廃棄物処理工場を見学



川越グリーンツーリズム拠点施設にて収穫体験を実施



金笛しょうゆパークを見学

# 令和7年度 日本・韓国青年親善交流事業 (地方プログラム) の受入れ



齋藤恵美子山形県しあわせ子育て応援部長への表敬訪問

令和7年度日本・韓国青年親善交流事業(韓国青年日本招へい)が11月18日(火)から27日(木)までの10日間の日程で行われました。韓国青年代表団25名は、東京都、大阪府、山形県を訪れ、地元青年との交流やディスカッション、ホームステイ等を行いました。本ページでは大阪府、山形県で実施された地方プログラムについて報告します。

## 大阪府

大阪府では、表敬訪問や地元青年とのディスカッション、文化体験等を行いました。

日程	プログラム
11月19日(水)	歓迎会
11月20日(木)	大阪女学院大学プログラム -学長挨拶 -大学ツアー -アイスブレーキング -地元青年とのディスカッション及び交流 大阪グループツアー
11月21日(金)	渡邊繁樹大阪府副知事表敬訪問 お好み焼き作り体験



渡邊繁樹大阪府副知事への表敬訪問



地元青年とディスカッション

## 山形県

山形県では、表敬訪問や文化体験、2泊3日のホームステイ等を行いました。また、22日(土)の一部のプログラムに鈴木憲和農林水産大臣も出席しました。

日程	プログラム
11月21日(金)	齋藤恵美子山形県しあわせ子育て応援部長 表敬訪問
11月22日(土)	紅花染め体験 花笠体験 歓迎会
11月23日(日)	ホームステイ
11月24日(月)	書道体験 お別れ昼食会



花笠おどり体験

# 安心して人生を全うできる社会のために

## 既参加青年の活動

### 小谷みどりさん



ここに  
小谷みどりさん

シニア生活文化研究所代表理事  
第18回「東南アジア青年の船」事業参加

大学院一年生で「東南アジア青年の船」に乗り、今年で35年になります。この経験がきっかけで、私は死生学の研究者になりました。ブルネイで遭遇した水死体、タイで放送されたテレビ番組で流れていた事故死の遺体など、死への接し方が日本人の感覚と全く違うことに衝撃を受けました。フィリピン人、ブルネイ人のキャビンメイトと、宗教、人生について夜な夜な語り合い、国や文化による生や死の考え方の違いも知りました。今でも、フィリピンやマレーシアのホストファミリーとは本当の家族のようにつき合っています。両親は他界しましたが、当時は赤ちゃんだった孫たちが親になり、悲しみや喜びを共有できる家族が増えました。

### 死生学の研究者に

翌年入社したシンクタンクでは、自由なテーマで研究できる環境だったので、死生観にまつわる研究をしたいと申し出ました。当時の日本では死はタブーでしたが、少子化、国際化や核家族化が進む日本では、死の様相が変化することを私は確信していました。30数年前、一から独学で始めた死生学ですが、今では単著10冊を出版するまでになりました。



マレーシアのホストファミリーと (2025年5月)

### アジアの若者支援を

一方で、私は、貧困で教育が受けられないアジアの子どもたちの存在を忘れることはありませんでした。10年ほど前、インフラが一切ないフィリピンの山岳少数民族の村に、教員となったキャビンメイトがマニラの書店で選んでくれた数百冊の本を贈りました。

気力があるうちにできることをしようと、50歳を目前に退職し、フリーの研究者として活動しながら、アジアで唯一未踏の国だったカンボジアで、若者への職業支援を試みました。プノンペン市内のコンビニで、大使館員として駐在していたブルネイ人のキャビンメイトに偶然再会したのも、驚きでした。小さなパン工房を開き、コロナ禍では、ごみ収集の方やホームレスの方たちに毎日、パンを無償で届けました。現地の僧侶と一緒に、貧困にあえぐ人たちの支援もしています。



本を寄贈した、フィリピンの山岳少数民族の子どもたち

### 安心して人生を全うできる社会のために



現在は都内で月に2回、ひとり暮らし高齢者の居場所として、自費でシニア食堂をしています。無償のランチ、お茶、お菓子を共食しながらおしゃべりを楽しめる場を提供しています。困っている誰かのために何ができるかを考えるようになったのは、船をきっかけに出会った多くの人から優しさや学びをもらったからです。これからも、みんなが安心して人生を全うできる社会の実現のために努力したいと思います。

カンボジアにて、現地の僧侶とともに貧困にあえぐ人々を支援

# 伴場森一さん



ばんばしんいち  
伴場森一さん

UNICEFギニア共和国事務所  
平成28年度「世界青年の船」事業  
令和3年度「東南アジア青年の船」事業  
(オンライン)

UNICEFのギニア共和国事務所において、People and Culture Officerとして、人事管理、採用活動のほか、職員に対する研修業務等を行っています。プライベートでは「国際交流団体STAGE (Student Association for Global Opportunities and Empowerment)」の代表として、国際開発及び国際交流に関心を持つ学生とともに、様々なイベント・セミナーを企画・実施しています。

## 事業を通じて得た経験がキャリア形成の後押しに

私は平成28年度「世界青年の船」事業に参加しました。本事業において、諸外国の青年との交流を通じて、リーダーシップを発揮して活動に成果をもたらす姿勢や、限られた時間の中で最大の成果を追求する姿勢を学びました。大学院在学中の参加であったため、その後のキャリア及び令和3年度「東南アジア青年の船」事業(オンライン)において、これらの学びをいかすことができたと考えています。また、振り返ると、平成28年度「世界青年の船」事業にて国際開発分野のプロフェッショナルと議論を交わした経験が、私のその後の同分野でのキャリア形成の後押しになったと考えています。



国際交流団体STAGE4期活動開始の様子  
(2025年6月)

## 国際交流と青少年へのエンパワメント

「国際交流団体STAGE」は、令和3年度「東南アジア青年の船」事業(オンライン)終了後、国際交流の機会における地域格差の是正及び青少年のエンパワメント推進等を目的とし、同事業参加青年及び「世界青年の船」事業参加青年とともに創設しました。主な対外活動としては、平成28年度「世界青年の船」事業のウクライナ人参加青年との文化セミナー、「東南アジア青年の船」事業各国参加青年と日本人との交流会、「世界青年の船」事業参加青年である国際機関職員によるキャリアセミナー等、多岐にわたる企画を実施してきました。また、当団体の学生メンバーに対しては、社会人メンバーが国際開発に関する勉強会やキャリア指導を行い、内閣府青年国際交流事業も紹介しています。

しては、社会人メンバーが国際開発に関する勉強会やキャリア指導を行い、内閣府青年国際交流事業も紹介しています。

## 今後の展望

両事業の終了後、何年も経過した現在も、事業参加青年との関係は継続しています。前述の通り、ともに事後活動の企画・実施をするほか、国際機関の知人が特定の国で活動する際に、その国の事業参加青年やその知人を繋げたりする等、公私にわたる交流を行っています。今後こうした繋がりを活用し、国際社会に寄与していきたいと考えています。

STAGE主催のオンライン交流会(SSEAYP 2021 Youth Council各国代表青年協力:2022年8月)



### 内閣府青年国際交流事業

詳しくはこちら URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

内閣府青年国際交流

検索



### 内閣府青年国際交流事業 2025年 事後活動ニュース

発行日: 2026年2月28日

発行: 内閣府青年国際交流担当室

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1 中央合同庁舎8号館8階

TEL: 03-5253-2111 (代表) URL: <https://www.cao.go.jp/koryu/>

編集: 一般財団法人青少年国際交流推進センター (Center for International Youth Exchange) URL: <http://www.centerye.org/>

編集協力: 日本青年国際交流機構 International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) URL: <https://www.iyeo.or.jp/ja/>